

令和4年度第20回

斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール選考結果について（お知らせ）

令和4年度第20回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクールには、山形県内はもとより県外・海外からも多数応募があり、小学校48校(団体)・2599首、中学校43校・3042首、高等学校50校・4861首、合計141校(団体)・10502首の作品が寄せられました。その全応募作品を対象に、第1次選考(入選200首)、第2次選考(優秀賞53首)、さらにこのたび(2月17日)、選考委員の大瀧保・田村元・結城千賀子の3氏による最終選考会が開かれ、小・中・高校の各部門2首・計6首の最優秀賞が左記のとおり決定いたしました。

なお、最優秀賞の表彰式は、令和5年5月14日(日)開催予定の没後70周年第49回斎藤茂吉記念全国大会の席上にて執り行う予定です。また、最優秀賞作品・優秀賞作品を含む全入選作品を収めた「令和4年度第20回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品集」は、本年3月15日付で発行し、応募学校(団体)等に配布いたします。

主催 山形県・上山市・上山市教育委員会・公益財団法人斎藤茂吉記念館

お問合せ先 公益財団法人斎藤茂吉記念館

〒999-3101 山形県上山市北町字弁天1421

TEL 023-672-7227 Fax 023-672-2626

令和4年度第20回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール最優秀賞作品(全六首)

【小学校の部】

犬の名はわたしが決めたお気に入りやさしくてらすランタンのラン

山形市立第一小学校

三年 小林千梨花

きりの中みんなと走る山道はひんやりとしてまつげがぬれる

上山市立南小学校

六年 高村愛凜

【中学校の部】

石だつてどこか遠くに行きたいさ誰か私をけつとばしてよ

仙台市立郡山中学校

二年 横山智恵

夕焼けの溶け出すような美しさはスマホのレンズに閉じこめきれない

学習院女子中等科

三年 野村仁愛

【高等学校の部】

あなたへと放った言葉雪となり溶けてなくなれ想いと一緒に

山形県立寒河江高等学校

一年 吉村美咲

ストローブ前動かぬ電車とにらみ合う今頃みんなは物理の時間

山形県立東桜学館高等学校

一年 涌井東吾

# 令和4年度第20回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール優秀作品（全五十三首）

## ■小学校の部（十二首）

犬の名はわたしが決めたお気に入りやさしくてらすランタンのラン  
あたらしい白いトレーナーだったんだずっときたいよきれいにたたむ  
ふゆやすみゆきをあつめてひみつちはいるときにはひみつのことば  
スキーでね二の字すべりができたんだビュービューおとがみみにきこえた  
かみをきふゆえないけれどがまんして病気の人に少し協力  
きりの中みんなど走る山道はひんやりとしてまつげがぬれる  
スクールバス運転手さんとお別れだいつかどこかで会えたらいいな  
新雪に愛犬歩いた足あとが水玉模様の道しるべのよう  
教わった「とめはねはらい」わすれない先生ありがと空から見ててね  
あたたかいあきにうえたよチューリップ花がさくころわたしは二年  
まつぼっくりバッタのにおいへくさむしぜんぶがくさいあきのくささだ  
きょうこそはとびばこ四だんとびたいな手のひらギュツととんとんはしる

## ■中学校の部（十七首）

この思い絵筆にのせてひた走るキャンパスの上私は自由  
たんたん仕事する母に憧れて一途に目指す看護師の夢  
蝉が鳴くそれに合わせて僕も鳴くギターから出るGコードの音  
「ありがとう」この一言を言えた時僕の中で何かが見えた  
今までの努力信じて挑む夏全力でやり全力で泣く  
しんしんとゆきのつもった冬の日に視界の端に煌めくりゲル  
元日に白い息吐き経を読む祖父の声聞き始まる一年  
石だつてどこか遠くに行きたいさ誰か私をけつとばしてよ  
断捨離で母の優しさふりかえる何度もとれたうわぎのボタン  
身長を超えてもずっとお母さん貴方のことを見上げています  
初めての後輩からの年賀状何度も見ても口角緩む  
夕焼けの溶け出すような美しさはスマホのレンズに閉じこめきれない  
ゆつくりとあるく祖母の手にぎりしめ買い物帰り思い出を聞く  
今年こそ皆でつかむあの舞台「よっしゃーいくぞ」俺たちの夏  
平然と始まった今日見つめてる花瓶が置かれたあの子の席に  
ワンツーと指揮棒ふられ身構えるチューバにうつる緊張の顔  
寄り道しそこで拾った百円玉右は交番左は我が家

山形市立第一小学校	三年	小林	千梨花	こぼやし	せりか
上市市立宮川小学校	一年	堀井	玲那	ほりい	れな
上市市立南小学校	一年	井上	ゆず	いのうえ	ゆず
	一年	久光	廉人	ひさみつ	れんと
	四年	大類	花乃香	おおるい	かのか
	六年	高村	愛凜	たかむら	あいり
	六年	田中	玲音	たなか	れおと
鶴岡市立大山小学校	五年	齋藤	洸	さいとう	こう
短歌むらやま(寒河江市立柴橋小学校)	五年	後藤	朱莉	ごとう	しゆり
越谷市立大沢北小学校	一年	兒玉	悠希	こだま	ゆうき
郡上市立大和北小学校	一年	池田	蒼太	いけだ	そうた
郡上市立大和第一北小学校	一年	大井	心叶	おおい	こと
山形市立第六中学校	二年	飯澤	陽咲	いいざわ	ひさき
	三年	朝倉	淳太	あさくら	じゆんた
	三年	長谷川	幸太	はせがわ	こうた
山形市立第七中学校	二年	佐々木	拓洋	ささき	たくみ
天童市立第四中学校	二年	遠藤	聖也	えんどう	せいや
山形県立東桜学館中学校	一年	土方	遼太郎	ひじかた	りようたろう
	三年	戸村	優衣	とむら	ゆい
仙台市立郡山中学校	二年	横山	智恵	よこやま	ちえ
学習院女子中等科	一年	竹内	千遊	たけうち	ちゆ
	一年	中田	倅	なかだ	さち
	二年	高橋	亜実	たかはし	あみ
	三年	野村	仁愛	のむら	いな
東京女学館中学校	三年	小島	愛梨	こじま	あいり
立命館宇治中学校	二年	名井	裕亮	ない	ゆうすけ
関西大学第一中学校	三年	緒方	淳	おがた	じゆん
香川大学教育学部附属高松中学校	二年	中川	奈千	なかがわ	なち
	二年	山下	碧久	やました	あおぐ

■高等学校の部（二十四首）

街路樹のひとつ残された銀杏に声援送る晩秋の朝

向きを変え黙食続けもう三年気づけばわずかな高校生活

百歳の利用者語る人生史あつという間にここまできたと  
髪切って鏡にらんで微調整君に会うための最終チェック

あなたへと放った言葉雪となり溶けてなくなれ想いと一緒に

ストーブ前動かぬ電車とにらみ合う今頃みんなは物理の時間  
びっしりとうまったノートの山を見て夢への切符と信じてはげむ

夕暮れの住民バスにもう少し乗っていたいと押さないボタン

雪だ、って誰かが言って結露するように授業は音をうしなう

背伸びして届かなかった身長も今では見える母の白髪

二年ぶり再会果した祖父の顔僕の知らない皺ふえている  
オンライン授業の疲れはいつもより眼の奥の方に残る気がする

暖かいうどんに生姜の味がきく隔離の部屋に母のおく味  
四つ折りの祖母の千円そのままに高校生活お守りにする  
早朝に雪かきをして出勤の父に無言でエールを送る

幼子が絵本売り場で伸ばした手かつての自分もねだった表紙

納豆を食べつつ願ふさあどうだ山羊座の今日の運勢いかに

お見舞いにクラスで折った千羽鶴私の好きをそっと織り込む

気づいてよ。あげたチョコより甘いもの「わからない」ってビターなあなた  
また一つ祖母が書き込むカレンダー黒く滲んだ「ヘルパーさん」の文字

久々に会った友だち変わってて会えた喜び寂しさ混ざる  
福袋開けて中見る神様の選んだ服は皆似合わない

大掃除見つけてしまったいつかの手紙渡せなかったいつかの気持ち

さあ来いとレシーブ姿たくましい泣き虫だった我が弟よ

山形県立霞城学園高等学校

三年 石山 紗和 いしやま さわ

山形県立上山明新館高等学校

三年 矢口 菜乃華 やぐち なおか

山形県立山辺高等学校

三年 高橋 瑚陽 たかはし こはる

山形県立寒河江高等学校

三年 渡部 ノア わたなべ のあ

山形県立寒河江高等学校

一年 吉村 美咲 よしむら みさき

山形県立東桜学館高等学校

一年 涌井 東吾 わくい とうご

宮城県小牛田農林高等学校

二年 西塚 ゆう にしづか ゆう

宮城県小牛田農林高等学校

二年 桜井 優月 さくらい ゆづき

福島県立安積高等学校

二年 高村 心温 たかむら しおん

東京学館新潟高等学校

一年 河原 元 かわはら げん

東京学館新潟高等学校

一年 熊倉 匡翼 くまくら きょうすけ

東京学館新潟高等学校

一年 中林 涼 なかばやし りよう

東京学館新潟高等学校

一年 本間 一 ほんま はじめ

東京学館新潟高等学校

二年 平松 穂花 ひらまつ ほのか

吉祥女子高等学校

三年 桑原 快周 くわばら かいしゅう

鎌倉女学院高等学校

一年 加藤 茉青 かとう まお

鎌倉女学院高等学校

二年 布木 柚月奈 ふき ゆずな

関西大学第一高等学校

二年 木下 紗綾 きのした さあや

三重県立四日市南高等学校

一年 秋山 花弥 あきやま はなび

三重県立四日市南高等学校

一年 古川 叶恵 ふるかわ かなえ

島根県立松江南高等学校

一年 岩石 唯 いわいし ゆい

島根県立松江南高等学校

一年 恩村 倅世 おんむら こうせい

徳島県立脇町高等学校

二年 明石 大和 あかいし やまと

宮崎県立日南高等学校

一年 川崎 莓華 かわさき まいか

# 令和4年度第20回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品（全二〇〇首）

## ■小学校の部（五十首）

犬の名はわたしが決めたお気に入りに入りやさしくてらすランタンのラン	山形市立第一小学校	三年	小林 千梨花	こぼやし せりか
シュート入れ大すきなんだサッカーがドリブルでぬくライバルはパパ	三年	関口 暉奈太	せきぐち ひなた	
さつまいもバナナみたいでかかったかえるかなちよろ虫もいっぱい	一年	松田 美緒	まつだ みお	
ロープウェイまどにはりつき見ているとすいこまれていくこうようの中に	二年	冬木 嘉倫	ふゆき よしつぐ	
春が来た生物いっぱい出てきたよぼくのミッシン虫となかよし	四年	石関 孝太郎	いしげき こうたろう	
通学路カシヤカシヤカシヤとふんで行く色とりどりの落ち葉のじゅうたん	五年	渡邊 真弦	わたなべ まいと	
たいいくでにんじやのしゅぎようおぼえたよマットのうえでまるたころがり	山形市立上山小学校	一年	大沼 陽	おおぬま はる
あたらしいかん字かくとき「森」の字は十二かくなんだながい字なんだ	一年	小関 瑛大	こせき えいた	
としょクイズいろいろ本を見たんだよあと一もんでチャイムが鳴った	二年	姉崎 悠真	あねざき ゆうしん	
シューシューとぶんぶんごまをまわしたよそよかぜみたいできもちいいんだ	二年	海老名 八重	えびな やえ	
月の色見れば見るほど色かわるまた見たいな色かわる月	三年	渡邊 由羽	わたなべ ゆう	
通学路赤や黄色の葉っぱたちおにごっこして遊んでいたよ	四年	浦山 千尋	うらやま ちひろ	
とび箱の台上前転やってみるむずかしいけど六だんとべた	四年	李 東航	り とうこう	
青空の下できらつと反射するすぐ立派な上山城	六年	菖蒲 隼杜	あやめ はやと	
ふゆのあさでつかいつららおれてたよおにいちやんがかなしんでたよ	山形市立宮川小学校	一年	木村 粹	きむら すい
おねえちゃんと二人でつくったゆきだるまにっこりえがおでこっち見てるよ	一年	齋藤 圭花	さいとう よしか	
あたらしい白いトレーナーがあったんだずっとききたいよきれいにたたむ	一年	堀井 玲那	ほりい れな	
ふゆやすみゆきをあつめてひみつきはいるときにはひみつのことば	山形市立南小学校	一年	井上 ゆず	いのうえ ゆず
スキーでね二の字すべりができたんだビュービューおとがみにきこえた	一年	久光 廉人	ひさみつ れんと	
雪ふってつんでつくった雪の山ほってできたぞぼくのひみつきち	二年	佐藤 涼太	さとう りょうた	
ゆきだるまパパといっしょにつくったよかぞくがひとりふえたみたいだ	二年	羽島 楓夏	はしま かな	
かみをきふゆえないけれどがまんして病氣の人に少し協力	四年	大類 花乃香	おおるい かのか	
卒業のアルバム写真「笑って」と言われるけれどこれが限界	六年	青木 悠	あおき はるか	
軒下で背中に雨粒受けながら作った芋煮は格別うまい	六年	安部 颯悟	あべ そうご	
『やまなし』のクラムボンって何だろう不思議がいっぱい宮沢賢治	六年	鈴木 優太	すずき ゆうた	
雲間からのぞく太陽光ってる樹氷に当たって幻想的だ	六年	関 孝太朗	せき こうたろう	
きりの中みんなと走る山道はひんやりとしてまつげがぬれる	六年	高村 愛凜	たかむら あいり	
犬のアム私の宿題に付き合ってひざに座っとうとうとしてる	六年	武田 羽心	たけだ うた	
スクールバス運転手さんとお別れだいつかどこかで会えたらいいな	六年	田中 玲音	たなか れおと	
制服を試着に行ったまず期待その後に来る大きな不安	六年	山口 蒼央	やまぐち そう	
立冬の干しがき作り朝六時祖母の笑顔がねむけをさます	寒河江市立寒河江小学校	六年	後藤 貴名	ごとう きな
凶工だ作品つくろうたのしいなぼくのアイディアみんなにとどけ	真室川町立真室川小学校	四年	土谷 恭平	つちや きょうへい
まどにつくダイヤモンドの結晶はみんなちがってかがやいている	五年	井上 夏奈	いのうえ かな	
友達も将棋の時はライバルだ真剣勝負勝ち続けるぞ	鶴岡市立朝陽第三小学校	四年	西塚 心吾	にしづか しんご
新雪に愛犬歩いた足あとが水玉模様の道しるべのよう	鶴岡市立大山小学校	五年	齋藤 洸	さいとう こう
教わった「とめはねはらい」わすれない先生ありがと空から見ててね	短歌むらやま(寒河江市立柴橋小学校)	五年	後藤 朱莉	ごとう しゆり
サッカーの決勝戦の熱い夏ゼったい勝つぞと空をにらんだ	六戸町立六戸小学校	四年	苦米地 稀功	とまべち めるく
あたたかいあきにうえたよチューリップ花がさくころわたしは二年	越谷市立大沢北小学校	一年	兒玉 悠希	こだま ゆうき

開花せよ私の努力と受験花桜のつぼみにささやきながら

江東区立数矢小学校

六年 堤 青葉

つつみ あおば

チューリップつちのなかでなにしてるかわいいめをだすべんきようちゅうかな

調布市立第二小学校

一年 間宮 莉奈子

まみや りなこ

年の瀬にコロナに感染つらかった自宅隔離でさびしい正月

玉川学園小学部

六年 中西 美空

なかにし みく

まつぼっくりバッタのにおいへくさむしぜんぶがくさいあきのくささだ

郡上市立大和北小学校

一年 池田 蒼太

いけだ そうた

いのししのおやこがみちにでてきたよりぼう3びきとことこあるく

一年 森前 叶乃

もりまえ かの

十二時だじよやのかねつき行ったらねみんなにこにこにぎやかな夜

二年 安藤 杏

あんどう あん

はつもうでねがいをこめてかねついたかん字と九九をマスターするぞ

二年 森山 旺亮

もりやま おうすけ

さむい道ヤギの親子がかけよつてムシヤムシヤムシヤとかれ草食べる

四年 南 希空

みなみ そら

きようこそはとびばこ四だんとびたいな手のひらギュツととんとんはしる

郡上市立大和第一北小学校

一年 大井 心叶

おおい こと

自分のね意見をいうとみんながねハンドサインでおしえてくれた

郡上市立大和南小学校

五年 石動 泰幹

いしどう たいき

けんばんと必死に向き合い見えてくる音の感覚心の動き

ワシントン日本語学校

六年 オスイフシエン

おすいふしえん えみり

## ■中学校の部（五十八首）

祖父からの最後のエール電話ごしこれからずっと刻まれていく

山形市立第五中学校

二年 岩城 陽太

いわき ようた

ハーモニー一人一人が積み重ねホールに広がる僕らの音色

山形市立第六中学校

二年 無着 結衣

むちやく ゆい

この思い絵筆にのせてひた走るキャンパスの上私は自由

山形市立第六中学校

二年 飯澤 陽咲

いいざわ ひさき

夏の音夜空に響く虫の音は黒い楽譜を色どる音符

山形市立第六中学校

二年 川田 ゆず

かわた ゆず

たんたん仕事する母に憧れて一途に目指す看護師の夢

山形市立第六中学校

三年 朝倉 淳太

あさくら じゅんた

大吉だ中学最後の初詣やさしく背中を押された気がして

山形市立第六中学校

三年 小國 優奈

おぐに ゆうな

蝉が鳴くそれに合わせて僕も鳴くギターから出るGコードの音

山形市立第六中学校

三年 長谷川 幸太

はせがわ こうた

ちらかった机の上にあるノートこすれてにじむ真っ赤なインク

山形市立第七中学校

三年 丸子 敬大

まるこ けいた

夜の空辺りを照らす月明かり今も輝く小雨の空に

山形市立第七中学校

二年 大葉 舜也

おおば しゅんや

「ありがとう」この一言を言えた時僕の中で何かが見えた

山形市立第七中学校

二年 佐々木 拓洋

ささき たくみ

頑張れよ祖父の一言胸刺さる祖父と一緒に目指す優勝

山形市立第七中学校

二年 佐藤 風沙

さとう なぎさ

「おかえり。」に「ただいま。」返す六時過ぎ母のぬくもり温かい日々

山形市立第七中学校

二年 三澤 蒼風

みさわ そな

気がつけばこんな差が出た君と僕「身長なんぼ？」何回も聞く

山形市立北中学校

二年 稲毛 煌太郎

いなげ こうたろう

伸ばす音声が重なる瞬間はみんなの思いがホールに響く

山形市立北中学校

三年 塩野 怜

しおの れい

今までの努力信じて挑む夏全力でやり全力で泣く

山形市立北中学校

二年 遠藤 聖也

えんどう せいや

「大堰」に郡れてはしゃげる鯉たちはパン競い合い鱗かがやく

山形市立北中学校

一年 三上 修矢

みかみ しゅうや

シヤクシヤクと少し酸っぱい青りんごほおぼる妹平和なひととき

山形市立長井北中学校

二年 菅野 奏

かんの かなで

重そうな甲羅を背負って歩いている丸くてきれいな小さな命

山形市立長井北中学校

二年 大井 釉菜

おおい ゆうな

気合い入れ手袋はめてイメージす玉弾く姿珠算検定

山形県立東桜学館中学校

一年 奥山 紗生

おくやま さき

しんしんとゆきのつもった冬の日に視界の端に煌めくりゲル

山形県立東桜学館中学校

一年 土方 遼太郎

ひじかた りょうたろう

雪道の黒ジャンパーの真ん中の赤色の彼遠く目で追う

山形県立東桜学館中学校

二年 高橋 美緒

たかはし みお

風が吹きパウダースノー舞い上がる三年ぶりの山雪景色

山形県立東桜学館中学校

二年 武岡 蓮

たけおか れん

距離保ちひさびさに会うおじいちゃんされど伝わるマスクの笑顔  
目の前にほろほろ儚く落ちてくる空がこぼした冷たい涙  
元日に白い息吐き経を読む祖父の声聞き始まる一年  
寒空にコーン！と響く白の悲鳴白い餅に木くず降りかかる

豪雪が静かに襲うイヴの夜なぜかサンタの安全祈願

石だつてどこか遠くに行きたいさ誰か私をけつとばしてよ

給食で今日も始まる争奪戦ゲットできるか？人気のおかず

手を触れば終わるわたしの恋のゆめ君の空気を吸ってみたいな

長かった虫と格闘三ヶ月食べるの惜しい我が子大根

咲きほこる春は刹那と過ぎ去りてあぜに留まる君の強がり

親戚とワールドカップの情報戦通知が鳴って負けじと返信

寒いでしょ悴んだ手にはめられる母のぬくもり赤い手袋

断捨離で母の優しさふりかえる何度もとれたうわぎのボタン

紅葉散る庭にたたずむ祖母の影抜け落ちてゆく記憶の葉たち

身長を超えてもずっとお母さん貴方のことを見上げています

亡き人へ雨で滲むや青信号向こう岸には傘持つじいじ

初めての後輩からの年賀状何度も見ては口角緩む

降りつもりまた雪溶けて降りつもる白い息吐く閉鎖空間

オフピーク電車の窓に残された満員電車の戦慄の跡

夕焼けの溶け出すような美しさはスマホのレンズに閉じこめきれない

ゆっくりとあるく祖母の手にぎりしめ買い物帰り思い出を聞く

クリスマス父にはこないプレゼント今年は私がサンタになるよ

戦争の悲鳴飛び交うテレビの前メリットなんてあるのだろうか

起きなさい母の声が聞こえたら今日もいい日が始まりそう

今年こそ皆でつかむあの舞台「よっしゃーいくぞ」俺たちの夏

暗闇に一筆書きの光芒が川辺に出でる蛍の燈火

もうできた？国語の作文聞いてくる母さん私すぐには書けない

平然と始まった今日見つめてる花瓶が置かれたあの子の席に  
この地には壊すハンマーしかなくて天にあるよね心のテープ  
また来てねツバメの巣立ち祝いつつポツンと残る巣このさみしさよ  
ワンツーと指揮棒ふられ身構えるチューバにうつる緊張の顔  
寄り道しそこで拾った百円玉右は交番左は我が家  
冬の蜂動かずずっと眠ってる夜勤あがりの父を想う  
登校時しわひとつないカッターシャツ母の愛情気持ち引き締む  
熊本城二度の震災にたえてゆく一本でつなぐ奇跡の柱  
加工して実物よりもかわいいねでも無加工は話にならん

山形県立東桜学館中学校

二年 森谷 条治 もりや じょうじ  
三年 櫻井 莉子 さくらい りこ  
三年 戸村 優衣 とむら ゆい  
三年 名和 美咲 なわ みさき

戸沢村立戸沢学園

二年八年 石塚 宇恭 いしづか うの  
二年 横山 智恵 よこやま ちえ

須賀川市立第三中学校

二年 八巻 龍成 やまき たつなり

茨城県立下館第一高等学校附属中学校

三年 谷田 優太 たにだ ゆうた

早稲田大学系属早稲田実業学校中等部

三年 柳瀬 優輝 やなせ ゆうき

工学院大学附属中学校

三年 日野 拓実 ひの たくみ

学習院女子中等科

一年 菊地 つばさ きくち つばさ  
一年 小池 響 こいけ ひびき  
一年 竹内 千遊 たけうち ちゆ  
一年 竹下 寧紗 たけした ねいさ  
一年 中田 倅 なかだ さち

二年 新井 友菜 あらい ともな

二年 高橋 亜実 たかはし あみ

三年 井上 さくら いのうえ さくら

三年 城石 きよら しろいし きよら

三年 野村 仁愛 のむら にいな

東京女学館中学校

三年 小島 愛梨 こじま あいり

南砺市立南砺つばき学舎

二年八年 前川 奈緒 まえかわ なお

二年八年 柳田 赴澄 やなぎだ たけきよ

川辺町立川辺中学校

二年 嶺川 大智 みねかわ だいち

立命館宇治中学校

二年 名井 裕亮 ない ゆうすけ

二年 松本 悠里 まつもと ゆうり

大阪府立長吉六反中学校

二年 岩崎 希風 いわさき ののか

関西大学第一中学校

三年 緒方 淳 おがた じゅん

三年 橋本 響 はしもと ひびき

香川大学教育学部附属高松中学校

二年 浄土 泰正 じょうど たいせい

二年 中川 奈千 なかがわ なち

二年 山下 碧久 やました あおぐ

大村市立郡中学校

一年 山内 哲平 やまうち てっぺい

二年 田中 航太 たなか こうた

二年 松下 海心 まつした かいしん

熊本市立城南中学校

二年 池田 徠晃 いけだ らいき

■高等学校の部（九十二首）

街路樹のひとつ残された銀杏に声援送る晩秋の朝

冷蔵庫何もないのに開けてみる私の胃袋ブラックホール  
文字の上あなたはいつも輝いて私の心を照らしてくれる  
冬の朝氷つくような空気感布団と私は磁石のようだ  
息をとめ星的見つめ動き出す弦音とともに心が晴れる  
梅雨くればくすんだ色の雨の匂い夏の訪れ知らせてくれる  
入学費貯金するためアルバイト皿を洗えば白くなる両手  
向きを変え黙食続けもう三年気づけばわずかな高校生活

初めての言葉ばかりの看護の道意味は分からず使って話す  
「個別性」一人ひとりに合ったケア導くためにクラス殺伐  
卒業式一瞬だった三年間どの思い出もコロナと共に  
病棟で朝の挨拶元気よく足の震えは止まらない  
百歳の利用者語る人生史あつという間にここまできたと  
3年生夢に近づき胸が鳴るあの時決めた看護師の道  
髪切って鏡にらんで微調整君に会うための最終チェック

店先の一輪の花さびしげに春の便りを私に告げる  
ランニングふと横見ると美しい夜景広がる寒河江の町の  
薄パセリこのまま色が落ちるなら雪とさらさら融けるだろうか  
ぼたん雪止む澄んだ空見上げると光るオリオン私を見てた  
あなたへと放った言葉雪となり溶けてなくなれ想いと一緒に  
街灯に照らされ光る結晶を無邪気につかむ君に恋する

ひらがなのわたしの名前のくつをはくいとこと歩くは新雪の道  
ストروب前動かぬ電車とにらみ合う今頃みんなは物理の時間  
びっしりとうまったノートの山を見て夢への切符と信じてはげむ  
手紙かく十六行の便せんは全てを書くには長くて短い  
くやしいな上を見上げて涙ぐむコートの中のみんなの足跡  
九人で掴みとったり初勝利響き渡った我らの校歌

助手席で光にあつまる虫を見て今だけ私は昆虫博士  
両親と進路について話す夜これまでのこと感謝する時  
夏の日の汗ぬぐう君の輝きが私に刺さるよまるで矢のよう  
我思う雨にうたれた君を見て叶うのならば雨になりたい

部活動竹刀にぎって素振りすれば足の冷たさ冬を感じる  
「おやすみ」と僕の隣で君は言う通話が終わる一人の寝室  
高い壁今日も越えた部活動夜空に見える自分の未来  
雪が降りCAD<sup>キャド</sup>の練習するときに指が冷えても集中してる  
製図終わりの帰り道ただ一人寒空に将来を馳せる  
元氣かなふと気にかかる授業中一人暮らしの福島の祖父

指揮棒を振り上げる手を見つめてる息を合わせて一つの曲を  
寮生活部屋に着くたび思い出す両親からの「おかえり」の声  
外は極寒だけど気持ちちは燃えさかる年明けに待つ新人大会

山形県立霞城学園高等学校

三年 石山 紗和 いしやま さわ

山形県立上山明新館高等学校

一年 岸 柚利 きし ゆうり  
一年 工藤 愛可 くどう あいか  
一年 齋藤 優衣 さいとう ゆい  
二年 菅野 瑞稀 すがの みずき  
二年 山川 恭佳 やまかわ きょうか  
三年 白田 優羽 しらた ゆうわ  
三年 矢口 菜乃華 やぐち ののか

山形県立山辺高等学校

一年 佐々木 苺 ささき まい  
三年 大橋 実優 おおはし みゆ  
三年 神田 凜 かんだ りん  
三年 小林 亜実 こばやし あみ  
三年 高橋 瑚陽 たかはし こはる  
三年 村山 彩乃 むらやま あやの  
三年 渡部 ノア わたなべ のあ

山形県立寒河江高等学校

一年 飯野 葵 いいの あおい  
一年 上村 光輝 うえむら みつき  
一年 佐藤 奏 さとう かなで  
一年 佐藤 琴春 さとう こはる  
一年 吉村 美咲 よしむら みさき

山形県立谷地高等学校

二年 杉浦 可奈子 すぎうら かなこ

山形県立東桜学館高等学校

一年 今井 月音 いまい つきね  
一年 涌井 東吾 わくい とうご  
二年 西塚 ゆう にしづか ゆう  
二年 早坂 蒼汰 はやさか そうた

山形県立村山産業高等学校

一年 深瀬 ひかる ふかせ ひかる  
一年 増川 琳太 ますかわ りんた

山形県立新庄神室産業高等学校

二年 伊藤 彩羅 いとう さら  
二年 大山 千代 おおやま ちよ  
二年 小野 来藍 おの きらん  
二年 柴田 稜希 しばた いずき

山形県立米沢工業高等学校

一年 斎藤 宏明 さいとう ひろあき  
一年 竹俣 莉玖 たけまた りく  
一年 長谷部 謙人 はせべ けんと  
一年 平瀬 冬士也 ひらせ としや  
二年 竹股 賢吾 たけのまた けんご  
二年 松原 喜亮 まつばら よしあき

惺山高等学校

二年 佐藤 果音 さとう かおん

米沢中央高等学校

一年 杉山 由菜 すぎやま ゆな  
一年 長谷川 圭太 はせがわ けいた

夕暮れの住民バスにもう少し乗っていたいと押さないボタン  
雪だ、って誰かが言って結露するように授業は音をうしなう

冬の朝窓は結露で曇っているまるで自分の将来みたいに  
閉店の理由告げないラーメンのお店は恋の終わりに似てる  
妹が喧嘩していた声さえも懐かしくなる下宿生活

背伸びして届かなかった身長も今では見える母の白髪  
やって来いコーチの信頼背に受けてピッチに挑む背番号12  
値上げより中身の減量選択のチョコビスケット少しずるいな

二年ぶり再会果した祖父の顔僕の知らない皺ふえている  
黒髪に触れた瞬間指先がしびれるのならもう恋なんだ

助手席のレモンの飴はもろ溶けて今年の夏の思い出語る  
オンライン授業の疲れはいつもより眼の奥の方に残る気がする  
トランプト吹奏楽部の練習はグラウンドに居るサッカー部の方へ  
母さんに「ありがとう」は照れるから今日の弁当「おいしい」と言う

暖かいうどんに生姜の味がきく隔離の部屋に母のおく味  
母さんのきんぴらごぼうは平常心大事な野球の試合の前に  
隔離され療養中の夕食の祖母の野沢菜祖母の味する  
リモートの授業している先生の声響いてる無人の教室

コロナ禍の自宅待機は学校の消えた世界僕らを試す  
兄ちゃんが成人した年新年のビールの音が一つふえたね  
それぞれの部屋でZOOMの授業する 妹 弟二人の背中

私より手荒れのひどい母の為ドラッグストアでクリーム選ぶ  
四つ折りの祖母の千円そのままに高校生活お守りにする  
十七の僕でも慣れないセルフレジタル社会の格差を思う  
年賀状「心」の文字をふつくとと祖母に書いた長寿祈って  
早朝に雪かきをして出勤の父に無言でエールを送る

君の名を呼ぼうとするとなぜだろう考えてしまう周りの反応

町中に響く鐘の音元旦に取り残されたサンタの飾り

幼子が絵本売り場で伸ばした手かつての自分もねだった表紙

金曜日母の代わりに姉弁当焦げたおかずにいっぱいの笑み  
「ガンバレ！」母の手紙と弁当に味方がいるさと握る鉛筆  
納豆を食べつつ願ふさあどうだ山羊座の今日の運勢いかに

化粧して畑仕事を手伝え「誰が見るの」と祖母のにやける  
「今度こそ頑張ろうね」と友と誓うテスト終わりの曇の降る道  
谷川に赤蕪洗う祖母の手の 皸はくりいくつも見えて

だれも来ぬ正月明けの部活動サーブで倒すコーンは六本

ため息に話しかけたの「これどうぞ」かばんで眠る折りたたみ傘  
部活動汗水たらし走る君どこの誰より輝いている

お見舞いにクラスで折った千羽鶴私の好きをそっと織り込む  
真っ白な雪道並び歩く朝私の方が多し足跡

気づいてよ。あげたチョコより甘いもの「わからない」ってビターなあなた

宮城県小牛田農林高等学校

二年 桜井 優月

さくらい ゆづき

福島県立安積高等学校

二年 高村 心温

たかむら しおん

東京学館新潟高等学校

一年 和泉 瑛太

いずみ えいた

一年 稲田 珠羽

いなだ みう

一年 大内 大雅

おおうち たいが

一年 河原 元

かわはら げん

一年 木津 顕太郎

きつ けんたろう

一年 熊倉 彩

くまくら あや

一年 熊倉 匡翼

くまくら きょうすけ

一年 小林 菜々花

こばやし ななか

一年 小宮 直佳

こみや なおか

一年 中林 涼

なかばやし りょう

一年 古川 陽詩

ふるかわ ひなた

一年 保坂 心々和

ほさか ここな

一年 本間 一

ほんま はじめ

一年 光澤 諒

みつざわ りょう

一年 森田 蒼生

もりた あお

一年 鷺津 宙

わしづ そら

二年 久住 桜太郎

くすみ おうたろう

二年 佐藤 琉月

さとう るな

二年 神保 ひなた

じんぼ ひなた

二年 高橋 花恋

たかはし かれん

二年 平松 穂花

ひらまつ ほのか

二年 松本 優太

まつき ゆうた

二年 渡部 鷹一

わたべ よういち

三年 桑原 快周

くわばら かいしゅう

西武学園文理高等学校

二年 武藤 明穂美

むとう あすみ

学習院女子高等科

二年 山口 愛結子

やまぐち あゆこ

吉祥女子高等学校

一年 加藤 茉青

かとう まお

鎌倉女学院高等学校

二年 田中 咲衣

たなか さえ

二年 中野 春菜子

なかの はなこ

二年 布木 柚月奈

ふき ゆずな

岐阜県立吉城高等学校

一年 倉家 るみ

くらけ るみ

二年 田之下 なつめ

たのした なつめ

三年 山東 悠乃

さんとう ゆうの

愛知県立知立高等学校

二年 平野 伸

ひらの しん

椋山女学園高等学校

一年 安藤 希

あんどう のぞみ

一年 出崎 有佳莉

でさき あかり

関西大学第一高等学校

二年 木下 紗綾

きのした さあや

二年 中村 果乃

なかむら かの

三重県立四日市南高等学校

一年 秋山 花弥

あきやま はなび

三重県立四日市南高等学校

帰り道音楽きいてリズムのる風にのつてる草といっしょ  
住みなれた土地から離れ旅に出る見上げるわたし空とぶわたげ  
冷えた手を吐息でほぐす冬の道行くあて塾にて冬期講習  
また一つ祖母が書き込むカレンダー黒く滲んだ「ヘルパーさん」の文字

島根県立松江南高等学校

久々に会った友だち変わってて会えた喜び寂しさ混ざる  
福袋開けて中見る神様の選んだ服は皆似合わない  
深々と降り重なる牡丹雪窓から見つめる愛猫一匹

一年 岩石 唯 いわいし ゆい  
一年 恩村 倅世 おんむら こうせい  
一年 松平 琉那 まつだいら るな

徳島県立脇町高等学校

大掃除見つけてしまったいつかの手紙渡せなかったいつかの気持ち

二年 明石 大和 あかいし やまと

宮崎県立日南高等学校

さあ来いとレシーブ姿たくましい泣き虫だった我が弟よ  
友達の白のスパイクボロボロだぼくでも分かる練習量  
風にのりランドセルの子追い越したふとよみ返る幼き頃を

一年 川崎 苺華 かわさき まいか  
一年 末永 蓮 すえなが れん  
一年 松浦 遥菜 まつうら はるな